

国語科 3年

## 附属中学校のポスターを共同編集で制作する (3 時間計画)

(単元「附中『魅力』アッププロジェクト～自分の「附属中学校」を発信しよう～)

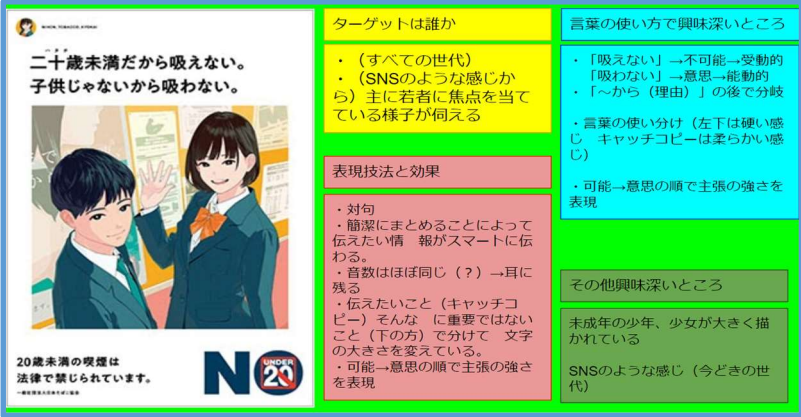


### 【活動の目標】

目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)

表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ)

### 【 問 い 】

- ・大分県内の公立小学校の6年生に対し、附属中学校の魅力を一目で分かるように発信しよう。
  - (1)どのような媒体が望ましいか。またその中には、どのような情報が含まれれば良いか。
  - (2)魅力を伝えるキャッチコピーはどのようなものが望ましいのか。
  - (3)ポスターのレイアウト等はどのようなものであれば良いか。

今回 ICT を活用した場面	従来の活動／資料
<p><b>A 一斉学習 / C2 共同での意見整理/ C1 発表や話し合い</b></p> <p>4人班で、ポスターのキャッチコピーの特徴について意見整理を行い、それを基にそのキャッチコピーの効果やキャッチコピーに求められることを話し合う (Google スライドを使用)。</p>  <p>生徒の意見が反映されているスライド</p> <p><b>【ICT 機器を活用する良さ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カラーで提示され、拡大縮小も自由度が高いため、ポスターを丁寧に見ることが可能。(生徒の立場)</li> <li>○交流結果がスライド上に残るので、思考の跡もある程度振り返ることができる。</li> <li>○書き込みが4人同時にできるので、付箋に書き込むよりも、作業効率は良い。</li> </ul>	<p>ポスターに付箋で気付きを貼り付け、その付箋の整理をする中で、キャッチコピーに求められることを話し合う。</p>  <p>共同での意見整理の様子</p>  <p>意見整理後の生徒の批評</p>

C2 共同での意見整理 / C3 共同制作

4人班で、キャッチコピーのアイデアを出し合い、それらを基にキャッチコピーを制作する。

手書きのキャッチコピーを見ながら、話し合う。

**自分の考えたキャッチコピーは？**

レインボーコーンのような、  
わかりにくいけど、個性豊かな個人（ひとつぶ）が（とうもろこしのようにやさしい人たちが）団結（凝結？）しているかんじ

魅力があふれる。想像を超える中学校生活。

長すぎない  
シンプルで印象的な言葉

想像以上の三年間を  
句点はつけない。後ろに続く言葉は自由に考えてもらう。

想像を超える仲間が、きつと見つかる。仲間と共に。仲間と友に。附中、480面相  
ぎっしり、にっこり、きっちり、ぼっちり

11:23 9月17日  
「ともに」の同音異義語を使うことで記憶に残りやすくなってとても良いと思う。

11:24 9月17日  
ポスターを見た人にあとの言葉を考えてもらうというアイデアが良いと思う

11:22 9月17日  
「共に」と「友に」をかけていて覚えやすく、馴染みやすい

11:23 9月17日  
音が似ているけど意味が違う言葉を並べていて、それに学校！って感じの言葉でいいと思うわかりやすい

個々が考えたキャッチコピーとそれに対する班員からのコメント

【ICT 機器を活用する良さ】

○4人のアイデアを比べながら見ることができ、その良さや特徴などをつかみやすい。また、様々なアドバイスも文字として残すことができる。

C3 共同制作

決定したキャッチコピーを入れ、4人班でポスターを制作する。

手書きでの制作、または、PC1台でポスターの制作を行う。

※この活動は、本単元で付けたい力を付けるものではなく、次の単元で行うプレゼンテーションの素材を作るための活動である。

【ICT 機器を活用する良さ】

- すぐに訂正できるため、試行錯誤が望める。
- 誤字・脱字が少なく、字の巧拙の差がなくなる。
- 4人同時で作業が可能である。

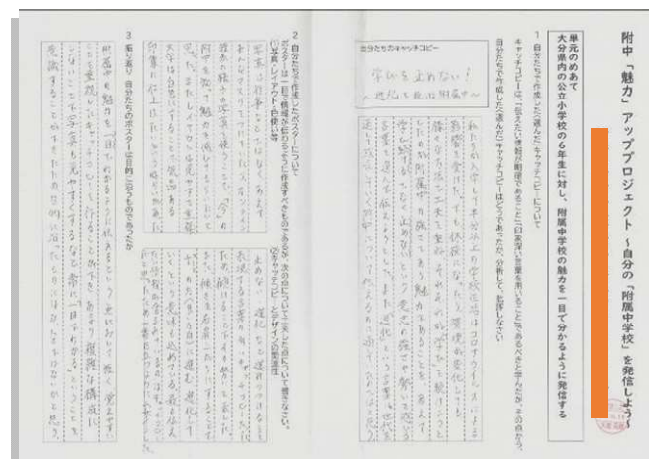


共同制作したポスターの例

【ICT 活用のポイント】

国語科が付けたい力を付けるための試行錯誤に時間を費やすことができたという点において効果があった。また、同グループの生徒の思考過程が、共有できるという点からも有効である。さらに、成果物を評価材料の一つにする場合、文字の巧拙など、評価には関係ない要素を排除できるという点でも有効である。

一方で、タイピングの力やアプリケーションソフトの運用能力の差によって、成果物の良し悪しが分かれてしまうということもある。評価材料に関しては、手書きのものとの併用も考えなければならない。



単元の振り返り